

# 4.14 授業再開阻止の非妥協的斗争 に向けて、本日の集会を庄重的に發表

全学斗の旗の下に結集するすべての学友諸君！ 3.川奪還斗争以降の我々の組織的現実を直視しつつ、4.川授業再開阻止・学園奪還斗争をヨイ抜く方針に向ぬ、これが再々復活の道筋にはならぬ。この現局面の困難性は何者ア?

現局面の困難性は、東大・日大を頂点とする全国学園斗争が、大學管理組織様式の破壊を押し進め、それと並んで国家の政策路線、法、イデオロギー体系と鋭く低歛していくことの中にはつきりと分かる。斗争のねぐら客觀的到達線を主体的な力量へと転化せしめていくかの垣間を取って、敵の軍事力を効果的に戦術的逆攻勢が展開され、更に国大也路線の破壊を手直し、強化せんとする策動が、一方ではそのイデオロギー的基準を中心教審分離申として押し出すことによって、他方では大学当局への種々の恫喝によつてねざされとしているのである。

教育大においては、ねねる全面的情勢の集約的発現として、庄重的方針によるパス武力制圧の背後で、斗争組織の解体なり、學内管理支配体制の強化再編が目論まれている。4.3.理教援公の授業再開にむけての決定は、卒業証書をエサに、強制的承認させ、「おやつ」学生自治活動の基礎とのものを破壊せんとするものである。さればオーニーに、全学生に反省を促す「誓約書を出させる」ということに露呈されてしまうに、筑波斗争の主義を國く主体化し、断固とした永遠斗争宣言をたたきつける部分に対しても、学園ページが用意され、「出でこないう生に對しては特別の措置をとる」ということである。オニに専内秩序維持への「国表」と「官憲」の導入、「専内規則の徹底化」「自治段への指揮の強化」として、中の教審分離答由の示した規範に忠実に、自主規制を徹底化せんとするものである。

やがて文教援公は(まだなまこはないが)授業再開に同意しつつ、それを「武闘」として、ロックアウト解除を主張し、その過程で自らのイニシアチブを引き返さうとするであろう。だがすでに「紛争解決の戦術的有効性」並びにブルジョワ合法主義による推進派の壁を突破しきれなかった彼らは、またとや破綻をくり返すであらう。自主技術開発とそれに照応する研究機能の分散集中、そして高等教育過程の再編を押し進めてくる当の國家権力にさっそく、実は彼らの存在基礎(講座制一教援公)が支えられていけるのだ、といつこと無知な彼らは、幻想としての「大学自治」イデオロギーにじわみつき、政治過程への批判的=異端的參與の放棄と引き換えに与えられた「教援」としての地位から、筑波移転といつ政策に決してつとめているのだ。白日夢以外の何物でもありえない。

長青にかななる文教援公は反対派と歩調を合ひつつ、条件斗争としての授業再開反対「斗争」ロックアウト解除請願運動を展開するであらう。

## 〈現段階における我々の任務〉

我々の年々がかかる筑波斗争をめぐる情勢をくつがえしていくことに据えらるばならぬことは、いうまでもない。それはオーニーに、先述のよう見回が二つの間に授業再開策動を実力をもって粉碎していくことであり、オニにそれを突破口として学園奪還・移転推進体制打倒へむけて進撃していくことであり、が三に、かかるヨイを通じて全学斗の政治的イデオロギー的団結を強化していくことである。

我がフロントは、オニ、オニ、オニの間に焦点を当てて、方針を提起したい。

## —斗争の内包的發展をかちとるために—

200箇十日にわたる我々のストライキ斗争は、しかもなぜがらにほどだ學内管理支配体制を破壊、解体せしめていく。教育大斗争における特殊な困難性の一つは未だ破壊解体しきれないところの學内管理制度だが、しかも政府文部省と強力に連携しているといふことである。我々は断固たる暴力奪還斗争を通じて、又教援公との対立を許さぬ対決の中から、官島移転推進体制とこれを実践的には許容している反対派を始めとする打倒し、全教援の自己批判と、教援公撤退を迫らねばならない。

## —斗争の外延的發展をめぐるためには—

かかる斗争の發展は必然的に大學教育とその組織形態を外側からイデオロギー的に支えていく政治权力との対決へと至らざるをえまい。オニは、教育大斗争に勝利するたゞにも、オレアタリは政府の政策に対して、更にはその辺の主張(=政府)の打倒めがれ

争いをもし進めるだけではならない。〈政治的教育斗争〉の推進の中から、その政治目標を  
安保自民党政打倒へと押し上げ、反政府性・反人民性を早急に獲得していく必要がある。

更に教育斗争と安保斗争の結びについて語らねばならない。(1)結びの客観的条件は、安保体制の徹底化が国内的面縮と直接的に進行していること、(2)その主体的条件は、教育学園斗争の到達点が、〈政治的教育斗争〉として、「自民党政打倒」を政治目標としてやがてうる地點に到りつつあること、そして斗争主体が教育斗争という限定された枠の中にはありながら、従つて「種々の偏向」を含みつつ「一々したる社会変革」の意証水準に達しつつあることである。四月、安保一連の斗争にむけて、西譲題を戦略的に切断することは、かかる斗争の到達水準からいって日和見主義であり、西譲題の無闇の結合は斗争主体の強化を結果としない。因着を操作する環は、政治目標と主体の高次化である。

以上に踏まえ、我々は、星斗の公然たる支持のもとにクラス末端から実行委員会を結成し、それを組織的保障として安保一連の斗争の負を蓄積し、教育大における銃被斗争、安保斗争の類的高次化と結び、主体形成を計らねばならない。かかる斗争主体の実体的強化、形成の上に、西斗争を結びしてまいり、星斗組織の建設をも展望しなければならない。

### —星斗の政治的イデオロギー的団結を強化するため—

既述した局面の困難性を突破していくためには、我々は以前に敵倍する單獨性思想性を唱誦されている。銃被移動阻止斗争が、「銃被幻想粉碎」という高度に政治的・銀色的・自衛隊問題をもつても、教授法評議会との対決といふ「別学内斗争」としての運営構造をもつて来たことに規定され、しかもその距離を意証的に埋めていくべき主体形成がはかれてこなかったということに規定され、星斗にいきだ意証的には、同業組合性、即自利害への固執を絶ち切りえてはいけない。又、敵が学生のうちに存在する即自的意証一単位と試験、卒業証書によって自らの勝負力をより高く考えるという意証一を恫喝の武器とし、官憲による暴力と重ねさせて斗争の手段を自説んでいる時、我々は敵の武器を我々の武器へ転化させねばならない。自らの斗争への関わりの主体的内省的反省を通じて、同業組合性への脱却、普遍的政治的立場の獲得をはしとげねばならない。又、かかる思想性の強化に引きえ、組合主義ヒモとく戦略としての社会改良主義やサンライズムを批判貶めた革命的戦略にもとづく政治方針をもたらねばなりません。我々は自分を政治的イデオロギー的に高めねばならないのだ。

### —14授業再開阻止、学園奪還斗争にむけての戦術、斗争形態はどうあるべきか—

斗争の困難性が敵の圧倒的軍事的優位性に由来するものではなく、斗争の到達段階に見合った、及至る所をも越える主体が側的にも量的にも未形成であることに起因するものである以上、我々のとるべき斗争形態は軍事技術主義的手段ものではありえないし、又軍事的手段を用いる日和見主義に陥つてもならない。時に授業再開策動が自衛隊の暴力をも背景とした政治的イデオロギー的内容をもつた攻撃であることを踏まえるならば、斗争形態は星斗の政治的力と人々モニーを圧倒的に上回させるものでなければならぬ。その担い手の前は同業組合性を克服し、系統的に斗争なく思想性戦略があり、それと競争する形態は移動推進体制を自説的にせず無自説的にせず支えている一切の部分（推進派、反対派、授業再開に応じようとする學生）に対する徹底した運動、告発と裏力による阻止を打ければならない。従つて我々のとるべき斗争形態は、横内粉碎一丸内実入一丸内無期限坐りこみ集会である。軍事的敗北はただちに政治的敗北を意味しないが、我々が敵の軍事的優位性に対して最後まで抵抗しないならば、政治的敗北するであろう。

すべての学友諸君、3、14奪還斗争以降の昏迷と弧張を政治技術主義的に切り替るのでなくして、星斗過程の主体的線括と、政治方針をめぐる討議、更には思想的強化のためのイデオロギー論争を徹底的に遂行する中から、4、14斗争には量においても質においても3、14を大きく上回る隊列を形成しようではないか！ 我がフロントはその最終端を断乎として担うであろう！

### 〈スケジュール〉

4.11 授業再開阻止、奪還ヤ一被斗争

4.14 カニヤ斗争  
(理3年生オリエンテーション)

4.19 教育大斗争報告集会 於山手ホール

4.20 反戦反安保沖縄奪還自民党政打倒青学統一行動

（反戦青年委員会）